

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

平成31年4月に標準学力分析検査において、標準偏差値を47.2以上にする。

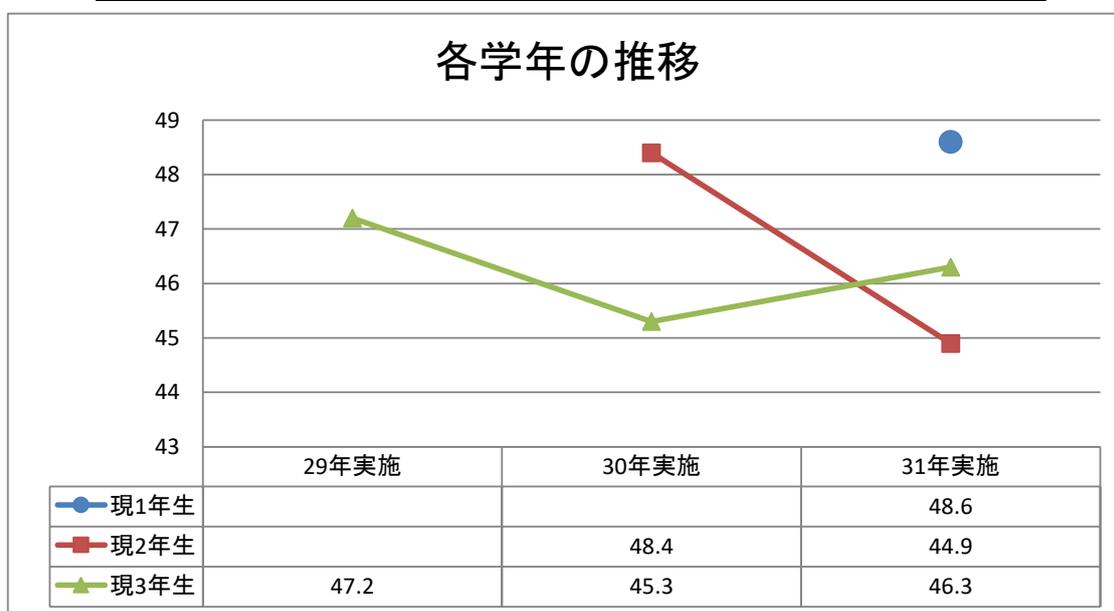
3. 指標にむけての取組

- ・授業の導入で生徒に「見通し」を持たせ、まとめで「学びのふりかえり」のある授業展開の実施。
- ・授業力向上のために、一人一回の授業研の実施と指導主事を招聘した全体研修会の実施。
- ・基礎・基本の定着に向けてモジュール学習を計画的に実施。
- ・家庭学習の定着を図る週末課題と自学ノートの徹底と継続指導。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
本校(A)	46.0	47.8	48.3	48.2	46.6
嘉麻市(B)	47.0	47.3	47.9	49.3	48.8
(A)－(B)	-1	0.5	0.4	-1.1	-2.2
標準偏差値との差 (A)－(50)	-4	-2.2	-1.7	-1.8	-3.4



5. 各学校における分析

学校評価の教師アンケートの結果から

○「目的・方法・観点のある授業展開ができているか」では、研究授業の効果もあり、前期の結果より0.4ポイント上昇。生徒が課題解決に向けて見通しをもって授業に臨めるように工夫したことにつながっている。

○「各教科で課題(特に週末)を与えることができたか」では、昨年度より0.1ポイント上昇。5教科を中心に課題を与えているが、家庭でしっかりと取り組み、提出率を上げることが課題である。

○「基礎・基本の定着を図る取り組みを行ったか」では、昨年度の結果より0.1ポイント上昇し、モジュール学習の取組は定着しているが、生徒の学力の伸びに繋がっていない面がある。

6. 各学校における今後の取組

- ・定期考査前及び定期考査後の補充学習を実施し、知識・技能の定着を図る。
- ・指導資料や全国・県学力調査問題等を参考に各定期考査で思考力を問う問題を提出する。
- ・家庭学習の定着を図る取組では、生徒の学力実態に応じた家庭学習課題を用意する取組と課題の提出率を上げる取組(提出率80%以上)を徹底する。
- ・学習内容の定着が不十分な内容については、「山田中タイム」(仮称)を設定して、習熟度別の補充学習を実施する。
- ・一人一回の授業研の中では、「かく活動」「話し合う活動」を積極的に取り入れ、知識・理解の習得と学ぶ意欲の向上に努める。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。

◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。

◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く(かく)活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施する。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導や教育論文指導を実施する。